

漁海況通信

長崎県総合水産試験場 漁業資源部 海洋資源科
 〒851-2213 長崎市多以良町 1551-4 電話 095-850-6304 FAX 095-850-6346
 ホームページアドレス <http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp/>

トビウオ漁況予報

「今年の特ビウオ（小トビ）の来遊量は平年を上回り前年並みでしょう」

予測の考え方

- 本県において、トビウオ類は5～7月に主に定置網で産卵親魚が漁獲され、9～10月に船曳網や定置網でその年生まれの未成魚（小トビ）が漁獲されます。
- 漁獲されるトビウオ類は、春～夏にはホソトビウオ（丸トビ）とツクシトビウオ（角トビ）の2種ですが、秋にはこれにホソアオトビが加わった3種となります（図1）。
- 秋に漁獲される小トビは、初夏に九州北西部から日本海西部の海域で生まれ、成長しながら南下していく途中の群と考えられます。
- これまでの研究から、小トビの漁獲量の変動要因として、産卵親魚の量や日本海西部海域の水温、8月の降水量、漁期中における北よりの風の日数などが挙げられます。

予測の根拠

○産卵親魚の量

山口県標本地区における定置網でのトビウオ類の漁獲量で、角トビが少なく丸トビが多いと本県への小トビの来遊量は多くなる傾向があります。今年5～6月の山口県標本地区のトビウオ類の漁獲量は、角トビ、丸トビ共に平年を下回りましたが、角トビに比べて丸トビが多く漁獲されました。

○水温と8月の降水量

日本海西部海域の水温が高く、8月の降水量が少ないと小トビの漁獲量が多い傾向があります。7月の日本海西部海域の水温は平年より高めで推移しており、九州北部（山口県含む）の8月（7/29～8/28）の降水量は平年並みである可能性が高いと予報されていることから、小トビの来遊量は多くなると考えられます。

○漁期中における北よりの風の日数

漁場形成に影響を与える漁期中における北よりの風の日数は、平年並みと仮定しました。

以上のことから、**今年の特ビウオの来遊量は『平年を上回り前年並み』**と予測しました。

上回る	並み	下回る
平年の1.2倍以上	平年の0.8～1.2倍	平年の0.8倍以下

【参考】本県標本地区におけるトビウオ類（小トビ）漁獲量（図2）

※平年は過去5カ年平均値：約145トン

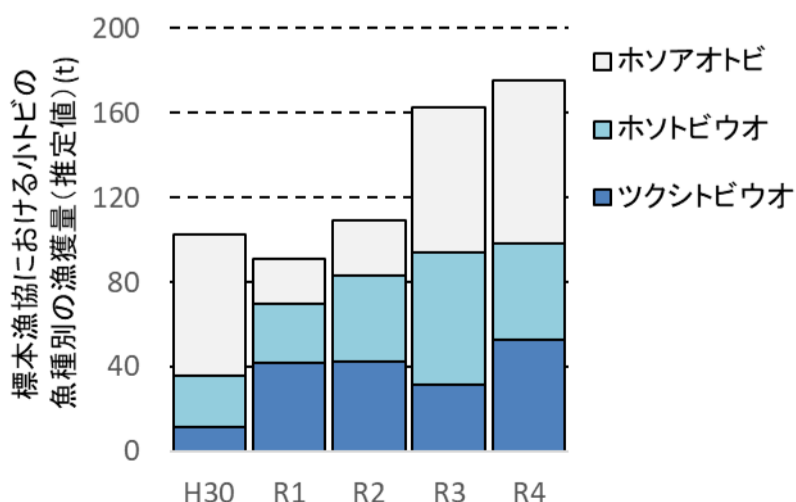


図1 本県標本漁協におけるトビウオ類（小トビ）の魚種別漁獲量（推定値）

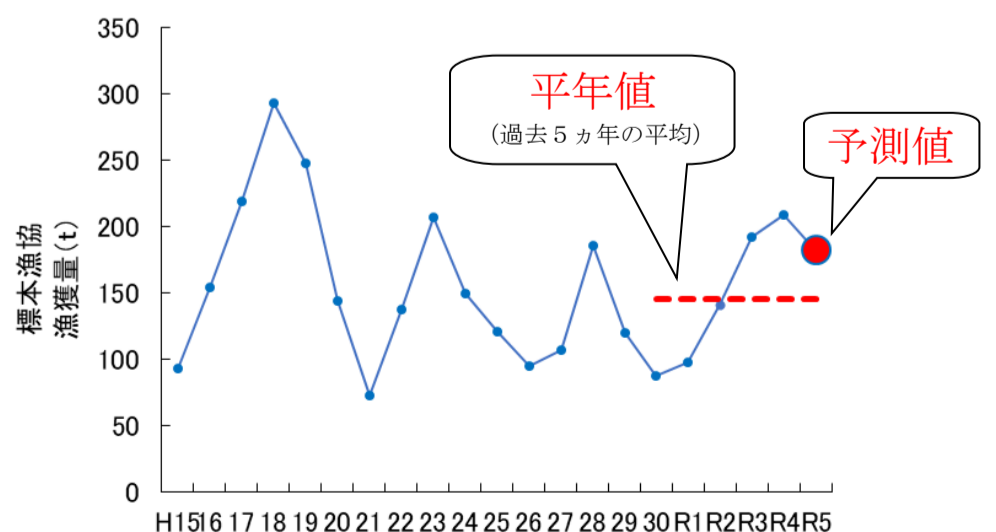


図2 本県標本漁協におけるトビウオ類（小トビ）漁獲量